

談話室

「第11回表面科学基礎講座」報告

工藤 正博

(財)材料科学技術振興財団
〒157 東京都世田谷区上祖師谷 3-11-1

(1991年6月28日 受理)

The 11th Short Course of Surface Science

Masahiro KUDO

MST Foundation
3-11-1 Kamisoshigaya, Setagaya-ku, Tokyo 157

(Received June 28, 1991)

今回で11回目になる表面科学基礎講座は、さる5月22日から24日の3日間、神奈川サイエンスパーク内のKSPホールで開催された。昨年までは都内の会場で行われていたのが、今年は交通の便、会場の広さなどで多少趣を異にしたが、180名を越える多数の参加者があり、内容的にも密度の高い講座が開催できたものと思われる。この基礎講座は、従来から、固体表面およびそれに関連する諸現象を計測/評価するための各種分析手法のうち、特に汎用性の高いもの、実用性に富んだものを選び、原理、装置、特徴、応用例を経験豊かな講師の先生方に講義していただくという形式で進めている。3日間

のプログラムは別表に示すとおりで、大筋では従来の企画内容を踏襲しているが、今年は特にSTMを独立した講義として扱ったのと、新たに「表面分析装置の基礎」という題目での講義を追加した点が従来とは多少異なっている。

受講者にアンケートを依頼したところ、総論を加えて欲しい、テキストをもとにした基礎的な参考書を出版して欲しいなどの、若干の意見や希望が寄せられたものの、おおむね本企画の目的を達成しているように見受けられた。参加者の年齢構成は20代後半から30代前半が多数を占めているが、学生や年配の管理職の参加も見られ、表面科学に関心をもつ研究者、実務者の層の厚さと裾の広さを表わしていると思われる。また、今回の参加者の中には解析/評価を専門としている人達だけではなく、材料やデバイスの開発、設計、製造を担当していて、自分の扱う材料を表面科学的に評価したいという要求から参加したという人も多く見受けられた。このことは最終日に行われた総合討論の席で、具体的な表面分析に関する質問が多く出たことにも表われていたと思われる。

本年度も昨年と同様に、11月21、22の両日、京都市サテパークにおいて今年度2回目の基礎講座を開催する予定で現在準備を進めているが、特に関西地区の方々の参加を期待している。

プログラム

月 日	時 間	講 義 題 目	講 師
5月22日(水)	9:30~11:00	表面界面分析の物理	福田 安生 (静大電子研)
	11:00~12:30	表面分析装置の基礎	大岩 烈 (アルバックファイ)
	13:00~15:00	電子顕微鏡 (TEM, SEM)	板東 義雄 (無機材研)
	15:10~16:40	走査型トンネル顕微鏡 (STM)	小野 雅敏 (電総研)
5月23日(木)	9:30~11:00	電子線回折 (LEED, RHEED)	一宮 彪彦 (名大工)
	11:00~12:30	電子線マイクロアナライザー (EPMA)	奥村 豊彦 (日本電子)
	13:30~15:00	ラザフォード後方散乱 (RBS)	草尾 健司 (松下テクノリサーチ)
	15:10~16:40	赤外分光 (FT-IR), ラマン分光	石田 英之 (東レリサーチセンター)
5月24日(金)	9:30~11:00	オージェ電子分光法 (AES)	吉原 一紘 (金材技研)
	11:00~12:30	X線光電子分光法 (XPS)	広川吉之助 (東北大金研)
	13:30~15:00	二次イオン質量分析法 (SIMS)	工藤 正博 (材料科学技術振興財団)
	15:10~16:40	演習および質疑応答	吉原, 広川, 工藤